

2024年(令和6年) 4月11日 木曜日

デーリー東北Dash 1面 掲載

Dash

Daily Tohoku Sports Magazine 「ダッシュ」

デーリー東北新聞社

月刊

2024 April 04

4月11日発行 (毎月第2木曜日発行) 定価100円(税込)



地域をつなぐ、スポーツでつなぐ

NORTH
TOHOKU
UNIVERSITY
BASEBALL
2024

北東北大学野球
春季リーグ
13日開幕

注目選手

小林日出
(八戸学院大)

八戸康治
(青森大)

杉山叶也
(青森中央学院大)

中野祐太
(岩手大)

橋高康太
(ノースアジア大)

坂本達也
(富士大)

頂点へ。

挑戦者たち
八学大様式野球部監督
新沼館貴志

フリープレイス
[シーズン総括]
守備重視のホッケーに手応え

青森ワッツ
劉 駿霆

[マッチレビュー]
ホーム最終戦で
今シーズンの集大成を

ヴァンラーレ八戸
[序盤分析]

本拠地で4戦の4月
順位浮上のひと月に

挑戦者たち

CHALLENGERS

文＝桑田 友人 写真＝岸山 浩之

八学大硬式野球部監督

新沼 舘 貴志

TAKASHI SHINNUMADATE

しんぬまだて・たかし 1981年12月生まれ。八戸市大久喜地区出身。市立南浜中卒業後、光星高（現八学光星高）→八戸大（現八学大）を経て、2004年に同大硬式野球部コーチ。現役時代は捕手として活躍した。趣味は磯釣り。

数多くのプロ野球選手を輩出している八戸学院大。およそ四半世紀前に硬式野球部は存在しなかった。

今年1月、大学OBで初めて指揮官に就いた新沼舘貴志は光星高（現八学光星高）を経て八戸大（現八学大）へ進学。愛好会から硬式野球部に切り替わった2000年の1期生として、藤木豊氏の指導を受けた。

04年からコーチとして藤木、正木公弘両監督を支えた。正村氏の退任に伴い、昨年12月に打診を受けた新沼舘は「やってやろうという気持ち。同世代の指導者には負けたくない」と改めて闘志に火を付けた。

プロになった卒業生のうち、多くが投手として大成するなど、投手力は八学大の持ち味だ。その流れを受け継ぎながらも「点の取り合いて打ち勝てる攻撃のチームを作りたい」と、打撃力強化に自身のカラーを見いだす。

大学野球の主流は今も関東勢。部の歴史を知る生き字引は「藤木さんがよく『東京の大学に負けるな』と言っていた。正木さんが引き継いできたその思いを選手たちに伝えることが自分の役目だ」と力を込める。

「うちの大学を選ばざるを得ない選手たちに、いかにモチベーションを持たせるか。常に高みを目指せば、『どこにいても野球は続けられる』と知ってほしい」。

大学の生え抜きとして思いは人一倍強い。「OBに帰ってくる場所を提供したい。そのためにも関東の大学を相手に結果を残したい」。新生・八学大が全国の舞台で躍動する未来を夢見る。

「どこにいても野球は続けられる」

頂点へ。
NORTH TOHOKU UNIVERSITY BASEBALL 2024
北東北大学野球

2年次から4番に 座る逸材

2年の秋から八学大の4番に座り、新チームでは主将としてチームをけん引する。強みは「引つ張った時だけでなく、逆方向にも力強い球を打てること」。打点を量産する、その一振りにはプロも熱視線を送る。

秋田県小さな街で育ち、地元の高校へ進学した。甲子園の舞台を踏むことはなかったが、スラッガーとして着実に力を付けてきた。

高校生の時に地元で観戦した、北東北大学野球のリーグ戦。大道温貴（現・広島）が登板し、「紺色のユニホームが格好良かった」と八学大への進学を志した。大学で木製のバットを手にしてから、

飛距離アップに取り組んできた。「それまでは（ボールまで）最短距離の軌道でスイングをしていたが、大学に入ってからラインを出す振り方に変えた」

逸心力をうまく使えるようになり、昨年はオープン戦を含めると2桁の本塁打を記録した。

打撃で成果を上げる一方、守備に不安要素があった。「イップスというか、送球がそれる癖があった」。このままでは守備位置が限定され、プロの世界に進めない。その思いから、昨年12月から同級生の投手の助言を基に、送球の改善に

着手した。

やり投げに似たジャベリックスローを練習に取り入れたこともあり、スローイングのブレは確実に少なくなり、今春から三塁手に定着した。

チームは昨秋のリーグ戦で9季ぶりの栄冠をつかんだものの、東北地区3連盟による明治神宮大会の代表を決める一戦で、同じ北東北のライバル・富士大に敗れ、全国大会には手が届かなかった。

「惜しいところで負けた悔しさを晴らすためにも、リーグ戦は絶対に負けてはいけない」。全国の舞台での雄飛を夢見て、今日も美保野の大地に素振りの音を響かせる。

攻守でけん引するスラッガー

八戸学院大4年

小林日出

Hiduru Kobayashi

こばやし・ひづる 2002年11月生まれ。秋田県能代市出身。市立鏡形小（五小フェニックス）一市立東中一県立能代高一八学大4年。手本とする選手は家来の湯村栄斗。余暇はサウナで心身を整える。右投げ右打ち。185センチ、91キロ。

頂点へ。

北東北大学野球

NORTH TOHOKU UNIVERSITY BASEBALL 2024

北東北大学野球春季リーグ戦は13日、1～3部が一斉に開幕する。1部は北東北3県の6チームが、5月2週目までの5週にわたって2試合総当たりで頂点を目指し、しのぎを削る。春の王者には全日本大学選手権（6月10～16日・神宮球場ほか）の出場権が与えられる。

昨年、春は富士大が10戦全勝で優勝。秋は八学大が8勝2敗で、春秋通算9季ぶりの頂点に立ったが、明治神宮大会の東北地区代表決定戦で2位・富士大に惜敗し、全国への切符を逃した。

富士大は全日本大学選手権と明治神宮大会ともに4強入り。北東北のレベルの高さを全国に証明した。他大学も力を伸ばしており、今季も激戦の連続が予想される。

1部6チームの登録有力なメンバー（4月初旬現在）と注目選手を紹介する。

文＝取材班



【北東北大学野球春季リーグ1部日程表】

第1週（盛岡市きたぎんホールパーク）	第2週（軽米町空野球場）	第3週（洋野町種市オーシャンビュースタジアム）	第4週（青森県空球場）	第5週（弘前市はるか夢球場）
4月13日（土） 富士大－青中大（9:00） 八学大－ノース大（11:30） 青森大－岩手大（14:00）	4月20日（土） 富士大－ノース大（9:00） 青森大－青中大（11:30） 八学大－岩手大（14:00）	4月27日（土） 八学大－青森大（9:00） 富士大－岩手大（11:30） ノース大－青中大（14:00）	5月4日（土） 八学大－青中大（9:00） ノース大－岩手大（11:30） 富士大－青森大（14:00）	5月11日（土） 青森大－ノース大（9:00） 青中大－岩手大（11:30） 八学大－富士大（14:00）
4月14日（日） ノース大－八学大（9:00） 岩手大－青森大（11:30） 青中大－富士大（14:00）	4月21日（日） 青中大－青森大（9:00） 岩手大－八学大（11:30） ノース大－富士大（14:00）	4月28日（日） 岩手大－富士大（9:00） 青中大－ノース大（11:30） 青森大－八学大（14:00）	5月5日（日） 岩手大－ノース大（9:00） 青森大－富士大（11:30） 青中大－八学大（14:00）	5月12日（日） 岩手大－青中大（9:00） 富士大－八学大（11:30） ノース大－青森大（14:00）